

特定非営利活動法人大阪マスタース陸上競技連盟

2025 年第 46 回理事会 議事概要

- 招 集 月 日 2025 年 7 月 6 日（日）
- 開 催 日 時 2025 年 7 月 19 日（土）13 時 00 分～16 時 42 分
- 開 催 場 所 難波市民学習センター 第 4 研修室
大阪市浪速区湊町 1-4-1 O C A T ビル 4 階
- 理 事 総 数 24 人
- 出 席 者 数 20 人（本人出席 16 人、議決権行使者：4 人） 出席監事 2 人
- 会 長 椎木 茂久
- 副 会 長 山中 保博
- 専務理事 井指 康裕
- 常務理事 安達 芳恵、池上 健三、小西 宏之、坂下 勝正、柴田 秀治、
並川 耕士、深尾 真美、藤田 幸久、三宅 要、村井 正信
- 理 事 糸原 一輝、大倉 節子、大野 鐘三、数野 哲也、熊取谷 信子
津田 光央、鶴川 久寿、中島 静一、早川 禎一、升田 昭
森井 正和
- 監 事 塚口 洋之、福本 康史

（注）氏名の下線は議決権行使者。 斜体字は欠席者。

1. 開 会

井指康裕専務理事進行のもと、同専務理事が 13 時 00 分現在における理事総数 24 人に対する出席者数が 18 人（本人出席 14 人、議決権行使者 4 人）と定足数を充足していることを確認し、13 時 02 分に開会を宣言した。

（注）最終理事出席者数 20 人（本人出席 16 人、議決権行使者 4 人）。監事；2 人

2. 議長、議事録署名人および議事録作成者の選任

椎木茂久会長のあいさつの後、定款第 35 条の規定により会長が専務理事を議長に指名。井指専務理事が議長となり、議事録作成者に藤田幸久氏、議事録署名人に、池上健三、安達芳恵の両氏を選任したい旨を述べ、これを諮ったところ満場一致で承認されたので、直ちに議案審議に入った。

3. 議案の経過要領および議案別議決の結果

第 1 号議案 2025 年度の事業運営について

議長から 2025 年度の事業運営について説明がなされた。

1. 競技運営の改善について

①周回カウントの問題

周回のカウントミスが多発していることに対して、周回記録員を増員するのはどうかという改善策が提案された。これに対して山中保博副会長らから、周回カウント用のチップを利用してはどうか、という意見が出された。駅伝のときに利用した計測チップのシステムは利用するのに 30 万円程度の費用がかかるので無理というコメントもあったが、陸協や学連で使用している周回カウントに特化した簡易な計測器ではどうかということで費用がどの程度かかるのかを調べることにした。その結果約 7 万円で利用できるということがわかった。システム導入でミスを減らせるのなら一度試してみないか、ということで前向きに検討することになった。

(注) システムを導入しても周回記録員の周回記録は必要であるため、周回記録員の確保にも注力していく必要がある。

②審判員の招集人数の問題

跳躍、投てきの審判員数が少ない(集まりにくい)ことに関して意見交換が成された。小西宏之常務理事からは毎回投てき 4 種目を実施しなくてもいいのではないかという意見が出された。また、前もって主任の方に依頼している審判員の出欠リストを提示し、審判員補充のアドバイスをしてもらうのもひとつの方法という意見もあった。

③ハードルのならべ方について

津田光央理事から、用器具係の立場からはレーン数が 8 でも 4 でも設置にかかる手間や時間はさほど関係ない、また、高さの設定は高い方から低い方に下げていく方が合理的であり、現行方式で問題ないのではないかという見解が示された。なお、用器具係主任を務める鶴川久壽理事から、競技の開始 30 分位前に手伝いの審判員も設置の打ち合わせのために集合してもらいたいとの要請があった。

④事前作業への謝礼について

競技会準備の必要な作業には謝礼が必要であるが、大阪陸協の方式にならって一件当たりいくら(時給ではなく)ということ考えていけばどうかということになった。

⑤プログラムへの大会記録の記載

現在使用している「上陸」ソフトでは各種目部分に記録を載せるのは難しいが、プログラムの後方に別途各種記録(大阪記録、大会記録等)をつけるのがよい。これに関して藤田幸久常務理事からウェブサイトの構成についても提案があった。事務局の池上健三常務理事からは 1 週間前には原稿が欲しいとの要望があった。

⑥大会エントリー方法の確認

事務局の安達芳恵常務理事からは、参加費の振り込みに関して振り込まれているお金が何のためのかわからないものがあって困っているとの報告があった。

2. 事務局への協力について

エントリーミスを防止するために、大阪マスタース陸上競技大会(9/23)、大阪マスタース記録会(10/18)のエントリー者の読み合わせを行う数名を募集する。

春先に決めていた競技会の担当理事に日が迫って来てからメールで日程の調整をしてはどうかという意見があった。

3. 下期の予定

日本マスターズ陸上競技選手権 2025 福岡のリレーについて津田光央理事から 12 チームエントリーしたことが報告された。

第 1 号議案に対し、上記以外に意見・要望等が出ないため、議長が賛否を諮ったところ全員異議なく承認、可決された。

＜休憩＞ 15 時 00 分～15 時 10 分

【検討事項について】

休憩をはさんで「検討事項 理事の担当業務について」の項に入ったが、椎木会長より本日は欠席者も多いので井指専務理事の考えを皆で共有するというところでどうか、という提案がなされた。これに対し、議長が賛否を諮ったところ特に異論は出なかったので、井指専務理事からレジュメに従って説明がなされた。

＜競技会用 P C の更新について＞

組織図に関連して小西常務理事からフィールドにも P C を持って行って現地入力することを考えると外部協力員も増えてくるという意見があった。また、競技会用 P C 8 台中 4 台はかなり古く（製造から 13 年くらいたっている）、立ち上げに時間がかかるので更新したいという要望があった。

椎木会長からは P C の管理について大阪マスターズとして何台の P C を持っていて、そのうち使えないものはどれ、古くなっているものはどれ、新しくて十分使えるものはどれ、ということをしっちりまとめて欲しいという要望があり、小西常務理事から Google ドライブにファイルを置いてあるとの情報が共有された。

＜競技会用全自動ピストルの購入について＞

競技会用に全自動ピストルを購入しておきたいという意見も出た。現状では競技場から借用しているが競技会の途中で故障する可能性もあり、そうすると競技会自体がストップすることになるので購入したほうが安全である、という補足説明がなされた。

なお、上記の 2 項目については、今年度の予算化はされていないが、理事会の決議で予備費からなんとかしていくということで P C 4 台とピストルを購入する方向で検討することとなった。

椎木会長より今後はボランティアだけでは大阪マスターズの活動は成り立たなくなることが考えられ、必要な作業については経費が発生することが予想される。また、今回の周回問題のチップ使用のような新たな出費も考えられることから会費や参加費の値上げも検討することもありうるという考えが共有された。

その他報告事項で藤田常務理事より上半期に更新された大阪記録の表が提示された。

閉会

以上をもって特定非営利活動法人大阪マスタース陸上競技連盟の第46回理事会の議案はすべて終了したため、議長は閉会を宣言した。(16時42分)